

第三十九回 南紀短歌大会 優秀作品

【知事賞】

終の日のかるやかであれあつけなく運ばれて行くピアノ見送る

白浜町

渡辺 美代子

【市長賞】

古道より出でて見下ろす太平洋一歩一歩は地球の一部

田辺市

中山 ゆみこ

【教育委員会賞】

父親似嫌がっていた夫なのに息子が自分似なのを喜ぶ

和歌山市

中尾 加代

【文化協会賞】

定年もなき終身を農に生く野良着に土の匂う倅せ

印南町

五島 勉

【佐佐木 頼綱 特選】

終の日のかるやかであれあつけなく運ばれて行くピアノ見送る
撫でさすりクリーム塗って足袋はかす七十余年を共にした足
定年もなき終身を農に生く野良着に土の匂う倅せ

白浜町 渡辺 美代子
田辺市 桑原 久枝
印南町 五島 勉

【佐佐木 頼綱 入選】

タッパーにいろどりつめて友来たりウーバーイーツ無き田舎町
突然の雷雨のあとの静けさに秋気漂ふ夕光のさす
若き日に終の住処と決めし夜が今また浮かぶ海沿いの駅
地球儀は陸地も海も変はらずに机上にありて静かなる日日
食堂に母を残して帰るとき母はこちらを振り向きもせず
パソコンの詠草打ちと畑打ちに倦まで撓まで我が喜寿の手よ
故郷へむかう車窓が風景の辞書のページをつぎつぎめくる

白浜町 木下 のりみ
美浜町 田端 弘
すさみ町 池田 美代子
田辺市 本田 花枝
和歌山市 榎本 紀子
和歌山市 滝本 のぶを
新宮市 池田 真理

【井谷 まさみち 特選】

父親似嫌がっていた夫なのに息子が自分似なのを喜ぶ

和歌山市 中尾 加代

新築の祝に訪へば甥夫婦「ローン地獄」と凜凜しき笑顔

印南町 久保井 千代

駆け足に追い越しゆきしカップルが地藏菩薩の前に手合わす

和歌山市 松田 容典

【井谷 まさみち 入選】

毀たれし家の壁土客土すれば見覚えのあるタイルの欠片

海南市 中西 令子

亡き母の笑顔あふれる遺影見て今日も一日「どうもありがと」

紀の川市 梅本 陽子

柿淡し待ち呉るる実家あることを墓参の道に友と語りつ

橋本市 長尾 ミチコ

終の日のかるやかであれあっけなく運ばれて行くピアノ見送る

白浜町 渡辺 美代子

からからと枯れ葉一枚に追い越されあらあらと足を速める

御坊市 小山 和代

ちんまりと線香花火が燃え尽きぬこの町以外の生活を知らず

海南市 森 悦子

【源 陽子 特選】

春雷にめざめて気づく君のうそ「もうだめかもね」は私のうそ

日高町 山野 苺

古道より出でて見下ろす太平洋 一步一步は地球の一部

田辺市 中山 ゆみこ

雨傘を地軸のように傾けて 駆け回る子の月として母

和歌山市 高野 仁美

【源 陽子 入選】

君がフラ素足におどる 白良浜秋はまだまだ行方不明で

白浜町 木下 正博

目を病んで趣味の編物ようやくに右目頼りの束子が一つ

和歌山市 野上 恵子

生命線短く春の小川めき身の水流のかそけさにゐる

上富田町 泉 葉子

児は指して凶鑑に「毒」の意味を問ふ 魅了されしか紅天狗茸

田辺市 杉若 喜代香

人毎の思い出ビデオしまつてる 巻き戻す度いつでも会える

田辺市 濱岡 裕子

瑠璃色の皿が目を惹く 棚の中うちに来るなら菜花を盛ろう

日高町 米倉 眞佐美

エアジュースをエアカップに注ぎくれて 五歳の母さんもてなし上手

田辺市 辻本 順子

【連盟賞】

タッパーにいろどりつめて友来たりウーバーイーツ無き田舎町

白浜町 木下 のりみ

ありがとう礼言うて捨つこの靴でよろこびステップ踏みし日もあり

御坊市 森本 知美

地球儀は陸地も海も変はらずに机上にありて静かなる日日

田辺市 本田 花枝

望月のにわか欠けて道長の世情いつしか憂いとなりぬ

白浜町 島 さつき

児は指して凶鑑に「毒」の意味を問ふ魅了されしか紅天狗茸

田辺市 杉若 喜代香

ちんまりと線香花火が燃え尽きぬこの町以外の生活を知らず

海南市 森 悦子

食堂に母を残して帰るとき母はこちらを振り向きもせず

和歌山市 榎本 紀子

瑠璃色の皿が目を惹く棚の中うちに来るなら菜花を盛ろう

日高町 米倉 眞佐美

長旅のアサギマダラが藤袴に命つなげり風にまかせて

御坊市 山本 範子